

皆さんのところにお伺いします！

日野町まぢづくり出前講座

「自治会の少子・高齢化が心配：」「日常生活のなかでできる運動を教えて」等の声にお応えし、町では、住民の皆さんの参画と協働のまちづくりをさらに進めるために、「まちづくり出前講座」を開催しています。

これは、皆さんが聞きにしたい内容をメニューから選んだら、町の職員が皆さんの所へ出向いてお話しするものです。自治会・団体・グループでお気軽にご利用ください。

平成29年度から
新たに始まったメニュー

☆健診からはじめる
生活習慣改善

他にも
メニューはたくさんあります。
詳しくは日野町ホームページを
ご覧いただくか
お問い合わせください。



申し込みから
講座の実施までの流れ

1 申し込み

自治会・団体・グループ（日野町内にお住まいお勤めの方10人以上）で聞きたい講座を選び、役場企画振興課までお申し込みください。（電話FAX・Eメールでも受け付けています）
※開催予定日の2週間前までにお申し込みください。

2 役場内で日程調整、結果連絡

申し込みいただいた内容を担当課と調整し、その結果を文書で連絡します。

3 出前講座の実施

担当職員が会場へ出向きお話しします。開催時間は約1時間から1時間半程度です。会場は主催者側で準備をお願いします。

申し込み・問い合わせ先 ◆ 企画振興課 秘書広報担当(役場1階) ☎0748-52-6550 FAX 0748-52-0089

感雑向綿

2017年6月

日野町長 藤澤直広

♪どこかに故郷の香りに乗せて入る列車のなつかしさ♪
名曲「あゝ上野駅」の一節です。東北や北関東地方から中学生が「金の卵」といわれ、就職列車で東京の玄関口である上野駅に降り立ちました。十代の少女少女が故郷を離れ、仕事に就いたのです。NHKの朝ドラ「ひよっこ」の主人公の矢田部みね子は、奥茨城村出身で東京オリンピックの翌年、高校を卒業し「向島電気」に就職。月給は1万2千円、寮費や預金などを控除した手取り6千円の内、5千円を実家に仕送りし千円で一か月を過ごします。年端も行かぬ少女たちの健気な姿に胸をうたれます。会社の寮には、田舎からできた少女達が仲良く暮らし、故郷訛りがとびかいます。東京オリンピックに向けて都心の道路やビル、新幹線の建設などみね子の父親のような出稼ぎ労働者がたくさん働いていました。こうした地方からの労働力によって、日本の高度経済成長を支えられたのだと実感しました。

あれから50年余が経過しま

すが、地方から東京への人口移動の流れはつづいています。東京一極集中を打開し、元気な地方をつくるための施策の強化が大切です。豊かな自然環境と温かい人間関係のある田舎を大切に思う『田園回帰』の流れを受け止め、定住移住対策にしっかりと取り組みたいと思います。

ところで、3年後に迫っている2度目の東京オリンピックの開催を口実に政府は、自由と民主主義を抑制する「共謀罪」の成立や平和憲法の要である9条の「改正」をしようとしています。平和の祭典であるオリンピックを政治利用してはなりません。

敗戦から20年目の東京オリンピックの最終聖火ランナーの坂井義則さんは昭和20年8月6日広島島の生まれ。真っ白のユニフォームで国立陸上競技場の聖火台の階段を一步一步かけあげり聖火に点火する姿は、日本の戦後の復興とともに平和国家としての歩みを世界に示す機会になりました。オリンピックを契機に平和への思いを広げるために力を合わせましょう。